

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第111回放送の概要（2016年7月23日放送）

パーソナリティ

さくら（安本久美子）
たろう（佃 由晃）
なか（中嶋邦弘）
かりん（妹尾優香）



ミキサー

門ちゃん（門田成延）
あな（岸本幸恵）

相談役

わだかん（和田幹司）

会計

小山俊則

1. 地上波からインターネット放送へ：1回目「ゆうかりに乾杯の再開について」

地上波FMわいわいは、震災後21年間コミュニティラジオとして放送を続けてきましたが、2016年3月31日をもって地上波放送を終了したことにより、番組「ゆうかりに乾杯」を終了しました。

地上波放送を停止した理由は、東日本大震災の後に放送法／電波法が改訂され、コミュニティ放送局が基幹放送局に位置づけられ、行政から災害対応に必要な補助金を受けていないのに、どんな災害が起こっても放送が停まらずに災害情報を流すことが求められます。また、放送が2時間以上なんらかの事故で停まると、「重大事故」扱いとなり、山のような原因追求書類と同様の事故が二度と発生しない設備、仕組みづくりと国の立ち入り検査が求められるなど、小規模のコミュニティ放送局にも過度の要求が課せられています。1昨年8月に、放送機器老朽化に伴い放送が一時停止した時の関係官庁との折衝経験から、地上波放送を継続することは困難と判断し、閉局しました。

4月以降についてはインターネット放送により再開すべく、4月1日よりとりあえず本格放送までの試行として、週1回、1時間程度の生インターネット放送を行ってきました。

このたびインターネット放送の準備が整い、7月16日より本格放送を開始しました。当分の間、毎週1回土曜日を放送日としています。

「ゆうかりに乾杯」は、7月23日（土）を再開第1回としてインターネット放送を通じて番組をお届けすることになりました。引き続き皆様方のご支援ご協力をお願い致します。

2. ゲストコーナ（1）：高野山真言宗西室院 副住職 田中宣照さん、友人の河野真紀さん

本日のゲストは、神戸市兵庫区、高野山真言宗西室院の副住職の田中宣照さんと、紹介いただいた河野真紀さんです。お二人とも兵庫高の卒業生で、田中さん（83陽会）は河野さん（82陽会）の湊川中学校以来のあこがれの後輩だったそうです。

（1）21年前の大震災の被害が大きかった大開通の北のお寺で、当時はどうでしたか？

高2で被災、お寺は倒壊した。戦災で復興したお寺だったが老朽化もあって、小さい子供部屋を避けて本堂で寝ていた。野球部の朝練がない日で、揺れるのは母親が起こしに来たと「今日は朝練

無しや」と叫んで、崩壊していくのも夢かと思った。脱出して後ろを振り返るとお寺は完全に倒壊してしまっていました。壁なども壊れて、両親は改築修繕済みの家屋で無事だったが、弟が倒壊した家屋の中で生き埋めに。仏様の御加護か、倒壊家屋の2段ベッドの横にできた三角隙間に三角座りして助かった。「無事か〜」の声掛けに、ピースサイン付きで返事、家族みんなで助け出した。周りの閉じ込められた多くの人を、ご近所町内の方々と力を合わせ、倒壊家屋から次々と助け出した。

その後も余震が続き、みなさんお寺に避難。寺は倒壊していたが、「丸潰れで落ちてくる物も無いから安全」とのこと。町内の無事だった家でみんなでお鍋を囲み食事などしていたので、子供ながらも孤立とか孤独とか思ったことはなかった。震災直後から地域の方々が集って、頑張っていないといかん、と前向きに感じていた。

(2) お寺の仕事を勉強してやろうと思われたのは？

仏教系ではない普通の大学を卒業するかしないかの頃から徐々に修業する時期を感じていたし、父親から「解っとるやろうな」と念押しされてお大師様のところで修業する覚悟をした。

高野山の専修学院に1カ年、70~80人のお坊さんと修行して阿闍梨（あじゃり）になる。多くの大学卒たちが全国から集まり、毎日講義を受けた。



(3) 高野山真言宗というのは？

短い時間に若い私が申し述べるのは難しいです。空海さんが遣唐使に伴って唐へ行き、「密教」の修行をされて持って帰られ、高野山を開かれた。

目標には「即身成仏」、この身このまま仏に成ること。一般には、山の中でミイラの様になって世に旅立たれた偉大な修行をされた方を即身仏とされているが、ミイラになることとは違う。他の多くの宗派では「欲」を抑え、削って削って修行する。真言では、自分の小さなわがままな「小欲」を早く捨てなければならないが、その先に「大欲」という自分自身のためだけでなく世のため人のため頑張ろう、みなに幸せを導いて行こうという「欲」を大切にしている。「大欲清浄」という。「即身成仏」とは、自分自身の素晴らしさに気付くこと、自分の中の仏心に気付くこと、それが第一段階である。人々は自分自身に潜む素晴らしさに気付かずに、傷ついたりくじけたりする。自分自身の仏心に積極的にアプローチして気付いて行くのが真言宗の現代の一つの特徴と思う。

(4) 他人と比較して、卑下するとか何もできないと思ひこむ人も多いですが？

人は「できない」と言う人ほど自分のことを「偉い」と見ている。「自分は凄い」と言う人もどうかとは思いますが。卑下とは謙虚と別のもの。卑下する人は多いが、良いところを持っているのに勿体ない。

(5) 空海さんの密教伝来について？

空海さんが唐で密教の伝達師、青龍寺の恵果さんに対面した際、「以前からあなた（空海）が来ると分かっており、久しい間待っていた。私の寿命はまもなく尽きる。私の弟子として全ての法を伝えよう」と、既に東方・西域から国際都市長安の都に来て修行していた僧1000人を飛び越えて密教の正統の深奥を空海さんに伝えられた。さらに、恵果さんがお亡くなりになったときに、日本からの留学僧の身でありながら「弔辞」にあたる部分も読まれた。

空海さんは密教の修行の前、まず最初にお経の書かれているサンスクリット語（梵語）を習われ、その優秀さは唐でも噂になっていたに違いありません。

もしその時に密教が伝えられていなかったから、恵果さんはお亡くなりになり、また唐での廃仏毀釈という仏教弾圧が始まって、日本からの遣唐使も廃止され日本に帰国する術を失くしていたに違いありません。しかも国の決まりを破って（長期留学僧なのに短期で勝手に帰国した）でも帰国し、密教を伝えて許されたことなども考えると、真言密教が唐から日本に伝わり高野山へと繋がったことは、現在の歴史学・宗教学の先生たちが史実に基づいて研究されているとおり、本当に奇跡の連続のお大師様の生涯であったことが分かります。

(6) 高野山から戻られて、お寺の仕事をされる中で震災等への応援活動は？

個人的には中越地震、能登地震などでボランティアに行った。その後の高野山挙げて、東日本大震災や熊本地震にも駆けつけている。一般のボランティアと違い、墓石を起こして拝んだり、壊れた仏壇を直したり。やはり、阪神淡路大震災時の長田が縁でした。

神戸の震災時でもそうだったが、避難後1～2か月経って衣食が整ってくると、やはり不満が出てくる。そんな時に高野山からお数珠1000連が届くと、避難所の方々は何重にも並んで受け取られた。食事が満たされてきた後は、やはり心ということでしょう。心の復興をお手伝いすることが、我々の勤めです。阪神淡路大震災の時にも各宗派の方々が駆けつけていただき、被災地に入って復興のお手伝いをいただいた。新しい被災地応援のあり方がこの時に始まったと思います。

3. ミュージック：『充（みち）』 作詞：神戸市立玉津中学校66回生、作曲：PASSION OGURA

『東北と神戸をつなぐ歌 充（みち）』は、作詞：神戸市立玉津中学校66回生、作曲：PASSION OGURA（小椋先生は元玉津中学校吹奏楽部の顧問）による曲で、東日本大震災後、玉津中学校が姉妹校である仙台市立八軒中学校の支援を始めたのがきっかけで、相互交流が始まり神戸市内の他校にも広がりました。その後、『充』を中心にしたチャリティコンサートをこれまでに36回開催してきました。交流を通じて生まれた、地元住民と一緒に取り組む植樹活動「気仙沼に神戸の森をつくろうプロジェクト」にCDの売り上げが贈られています。なお、CDには活動に賛同したコーラスグループ「サーカス」のリーダー叶高さんによる『充』の独唱など計9曲が収録されています。



充（みち）

今 僕たちに できること
それは 悲しみを 一緒に背負うこと
未だ見えぬ道の上に立ち まっすぐな瞳で 未来を描こう
大空に 虹を架けよう
ともに前を向いて 歩き続けよう 笑顔の花を咲かそう
響け歌声よ 多くの傷ついた 心を癒やし
まだ見ぬまっすぐな 自分の道を歩こう
僕らの住む街（神戸・東北）が傷ついた日
自然の怖さに 涙が出た
人のぬくもりを感じたとき 空に大きな虹が出た
立ち向かう勇気を持って
ともに歩く道で 翼を広げよう 虹の彼方へ飛び立とう！
心かよわせる 優しい笑顔と涙の中に
明るい光が 僕らの道を照らす
響け 歌声よ 多くの傷ついた 心を癒やし
まだ見ぬまっすぐな 自分の道を歩こう
君と歩いた道 デコボコな道 つまづいたときには
支え合う心 「仁恕」の心を胸に
さあ！ ともに歩こう

4. ゲストコーナー（2）

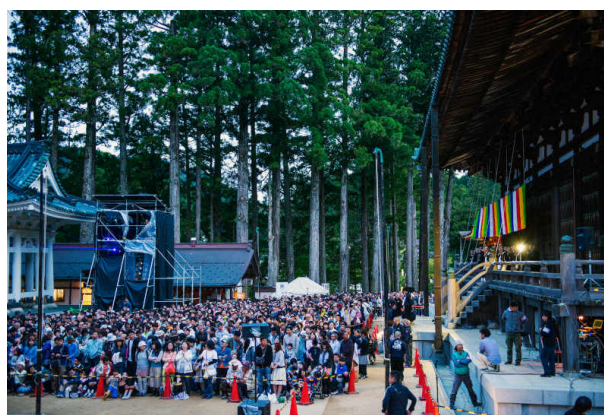
（1）お寺の若い人たちが中心となって地域活動、文化活動もやっておられるとか？

昨年、真言宗は高野山開創1200年の大きな節目を迎えて、春には開創大法会に全国から多くの信者さんを迎えて古式に則った法要・お祝いのお勤めをしました。そして、兵庫青年教師会や高野山真言宗の兵庫宗務支所や総本山金剛峯寺が協力して、高野山の檀上伽藍という大きな境内地、そちらで5月12日から17日まで、高野山の御開創1200年を祝い、お大師様の御恩に報いるため、「声明」という節つきで音楽的なお経と「3Dプロジェクションマッピング」「レーザー」など最新の映像技術、「和太鼓」を融合させて『高野山1200年の光～南無大師遍照金剛～』という法要を開かせていただきました。声明や和太鼓の音に、3D映像が反応して流れたり、お経の意味が投影されました。

ラストシーンではお大師様が仏具「三鈷杵（さんこしよ）」を唐から投げて密教流布の地、高野山を選ばれた故実「飛行三鈷杵」の物語を表現して締めくくりました。夜にもかかわらず境内には多くの信者さんが鮪詰め状態で集まって来られた。新しすぎる手法で批判される懸念もあったが、泣きながら手を合わせ拜んでくれるお年寄りや「高野山かっこいい」という若者も多く、無事盛況に終えることができた。

またこれは、2015年度の経済産業省後援の「JACE イベント アワード（日本イベント大賞）2015」で、「超世代アート賞」を受賞しました。一番古いことが最先端の賞を貰ったまさに1200年の超世代。このイベントでは事務局を勤めました。全体のデザインやいろんな方々、デザイナーやお坊さん、本山と兵庫支所などの繋ぎ役でした。みなさんのご協力のおかげでイベントができたのです。高野山の素晴らしいところを広くみなさんに知っていただき、楽しんでいただき、幸せになっていただけました。「場」の持つ素晴らしさを皆に感じて頂くのは、私の人生の楽しみでもあります。

元々遊ぶこと大好きで、今もDJ（ディスク・ジョッキー）を勤め、ヒップポップやソウルミュージックのほか、特にブラックミュージックが好きです。要するに「黒い音」が好き。



(2) 地域ではどのような活動を？

この7月30日に須磨海岸の海の家素晴らしさを知っていただくというプロジェクト。元来利用者は少ないが、ある程度の料金（通常大人1000円・こども500円）で、何も持って行かなくても一日くつろげる便利な海の家を発信したい。「かっぱ天国」という海の家は、須磨最古で畳座敷が一番広いところ、家族連れにも最適かと。有名デザイナーのTシャツも貰えます。そこでは、DJをしたり、フラダンス、和太鼓も。須磨寺の副住職によるギターやカホーン（木の小箱）のライブのほか、真言宗で一番面白い淡路のお坊さんによるギターライブ、高野山での太鼓奏者の方も登場。夏の思い出に、須磨海岸や海の良さをみんなで楽しんで貰いたいと考えている。

また、今後とも、神戸の素晴らしい場所での楽しみ方を紹介するイベントを考えていきたい。

(3) 若い人も、自分の心の拠り所を求めて来たり、仏教とかにすがりたいとか。お寺としてどう対処されるのでしょうか？

人生には何度も立ち止まる時が来る。今日とは、止まったら駄目だとか、行き続けなければ駄目だとか思われているが、私は「立ち止まる機会を得た」と思いたい。「停滞も成長のうち」とお師匠さんの教えもある。停滞したら違うステップを切るように考えたらいかか。

お寺に何かを貰いに来るのではなく、置いて行くこと。お寺が何かを与えるものではない。リセットして白くなってくれば万々歳で、後はお寺が仏さまに届けておき、仏様が解決してくれるようにするのがお寺の仕事だ。

自身の素晴らしさに気付くことが何より大切。今は、周りの人を気にしすぎる。頑張り屋さんか

らの相談が多い。「頑張る」とは個人的な物差しで、一度それを置いておいてもらいたい。また、「評価されていない」というのがあがるが、「褒めてほしい」のが本音だ。評価されなかったから腐るのは駄目だ。みんな褒めてやってほしいものです。

(4) 働き盛りの人が認められない、仕事が自分に合わないとか、よくあるが？

それは、「自分らしさ地獄」で、自分らしさを先に決めてフィットするように動くことに拘束され強制されている。先に決めないで「ベストを尽くす」こと。自分らしさは後から積み重なってくるもの。判断が早すぎるので、時間を掛けて決めれば良い。「自分らしさ」は追及するものではなく、お釈迦さまも「無我」言っておられます。自分で決めた道に拘ると変えられなくなる。コロコロ変わっていいんです。損得で動くとは尊敬されなくなる、「下手をこく」ことになる。

(5) 地域の人々とのプログラムは？

地藏盆という夏の終わりの行事で、地域の方と一緒にタッグを組んで、子供の祭りの後の大人の祭りも楽しめる。

また、毎月最後の日曜日の午後4時から、高野山に伝わる座禅・瞑想法の教室で、「阿字観実修会」を行っている。ウェブでも紹介している。小さい子供さんも参加。「阿字観」の「阿」は大日如来様のことで、無念無想で自分の欲を削ぎ落とす瞑想法ではなく、積極的に自分の心の中にある素晴らしいものを見出そうとするものです。

(6) 最近の世相で思われることは？

「ポケモンGO」のモンスターが遂に高野山にも出没したとか。お大師様が今も修行されているという奥の院を含めて聖地、神聖な場所には玩具（おもちゃ）事があるのは誰も幸せにならない。神聖な場所は大切に、感謝を表す場所でもあり、例えば、お子様が交通事故で亡くなられた交差点にポケモンが現れたら、親なら悲しいものです。人が大切にしている所を、楽しいからと軽々に扱われるのは如何なものかと思います。神聖な場所はそっとしておいてほしい。

(合掌)

5. 地域瓦版

(1) 「真野地区七夕祭」：7月24日（日）10時から、三ツ星ベルト神戸本社にて、鮎・神戸コロッケ・讃岐うどんなどが無料提供されます。

(2) 「鉄人ピアガーデン」：8月5日～14日、毎日17時～21時半まで、新長田の鉄人広場で、ビール片手にジャズをお楽しみに。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>